

平成 28 年度 第 3 回大阪府立豊島高等学校協議会 開催記録

開催日時	平成 29 年 1 月 27 日 (金)
場所	豊島高等学校会議室
出席者	委員 芝田氏 (関西学院大学教授)、大石氏 (財千里文化財団理事)、末永氏 (箕面市立第五中学校長)、奥川氏 (本校 PTA 会長)、湯川氏 (豊島会副会長・大阪府 PTA 協議会)
	校長 羽根 隆 事務局 佐々木教頭、福井首席、甲田首席、田中教務主任、岡本進路指導主事
校長挨拶	学校の近況報告
現状報告と 取組み	<p>(1) 平成 28 年度学校経営計画及び学校評価について (校長より)</p> <p>4 つの中間的目標に沿って、評価指標 (授業アンケート、学校教育自己診断) に基づき自己評価を説明。</p> <p><プラス項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション力の育成、大学見学バスツアーの実施、3 年間のキャリアデザインプログラムの構築、国際交流の継続 <p><マイナス項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択科目と進路実現、平日の家庭学習促進、コミュニケーション力の育成、わかりやすい授業の肯定率、進路や適性についての肯定率、遅刻総数の減少、部活動加入率 <p>(2) 学校教育自己診断実施 (教頭より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足度、教育課程、授業評価、生活指導、学校行事 (体育祭・文化祭)、進路指導、修学旅行についてグラフを使って説明。生徒・保護者・教員の評価が異なる箇所は分析を行った。
協議及び 質疑・応答	<p>A氏：生徒・保護者の7割～8割が「学校が楽しい」と言うのは、よく努力されている。学校が楽しいと感じるベースはできている。生徒はあれもこれもできないので、自分と向き合う時間が無いのではないか。これはやろうと言うスイッチが入れば生徒は自然と学習に向かう。</p> <p>生徒のルーチンワークの宿題はできている。何のための宿題なのか生徒に語る必要がある。</p> <p>B氏：中学校も家庭学習は課題である。生徒のスイッチはどこにあるのかいつも探し続けている。高校生なら目的・目標が見つければやる気が出て頑張れるのではないか。</p> <p>A氏：記憶を定着させるために宿題は必要。なぜやる必要があるのか納得させる必要がある。自分がこれからどの様に生きて行くか等、高校時代は一番不安な時期である。高校時代考える事が一杯与えられているので、考える材料はある。</p> <p>C氏：大学はこの様な力が付くところだと訴えてはいるが、高校での教育の難しさを感じる。</p> <p>E氏：以前より中学校では、考える生徒が増えている。</p> <p>D氏：やはり高大連携、キャリア教育が大切である。将来何をするか、何になるか自分で考えることが大切である。</p> <p>F氏：「プロに聞く」という豊島高校での取り組みは大変良い。自分の子供も今でも話の内容を大変良く覚えている。</p> <p>A氏：身近な大人 (先生も含む) から話を聞くと、自分を見つめなおす良い機会になる。遅刻の数から見ると、先生方の努力は良く分かる。</p> <p>G氏：子供は自分の思ったように階段は登れない。経済的な観点で物事を見るのも大切である。勉強の仕方、何が一番大切か、お金の使い方等を教えることは大切である。人生、生きて行くのに良いことばかりではない。</p> <p>B氏：学校と家庭の役割をはっきりすべきである。学校は進学をめざすのかははっきりさせる。総合的にバランス感覚を持った自立した生徒を育てるのが理想であるが…。お金の話は家庭でのこと。学校は何でもできる訳でない。先生方は圧倒的に時間が無いという現実がある。</p> <p>D氏：専門職という職業でも経済的に今は厳しい事もある時代。その様な事も含め、どう教えるかは大学でも難しい。社会でどの様な役割を果たしているか分からせたい。</p> <p>B氏：公立高校は進路相談、進学相談なのか。</p> <p>D氏：大学に何人入ったかの指標ではなく、どんな資質をつけたかが問われるべきだ。</p>